

小・中学校

平成 8 年 度

# 教育研究員研究報告書

へき地教育

東京都教育委員会

平成8年度

### 教育研究員名簿

市町村名	学 校 名	氏 名
青 梅	青梅市立第三小学校	関 根 清 彦
青 梅	青梅市立第四小学校	福 原 憲 生
青 梅	青梅市立第五小学校	宮 路 裕
あきる野	あきる野市立増戸小学校	岸 野 民 子
瑞 穂	瑞穂町立瑞穂第五小学校	小 柳 政 憲
奥 多 摩	奥多摩町立古里小学校	菱 田 吉 克
奥 多 摩	奥多摩町立氷川小学校	◎星 野 健
青 梅	青梅市立吹上中学校	○冨 田 聖 和
大 島	大島町立第三中学校	下 村 三 好
三 宅	三宅村立坪田中学校	高 松 正 志
八 丈	八丈町立富士中学校	加 藤 茂 美

◎ 全体世話人

○ 副世話人

担 当

東京都多摩教育事務所西多摩支所 指導主事 高 橋 和 雄  
同 上 中 村 貴美子

# 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究のねらい	2
III	研究の仮説	2
IV	研究の全体構想	3
V	研究の内容	4
	検証事例・その1	
	学区における観光案内を通して、一人一人の生徒が自ら学ぶ力を育てる指導の工夫	
	・中学校第1学年社会「身近な地域」	4
	検証事例・その2	
	地域の環境問題を調べることを通して、自ら課題を解決し、地域に関心を持つための指導の工夫	
	・小学校第5学年社会「公害について考えよう」	8
	検証事例・その3	
	秋川を題材としたマット運動を通して、一人一人の児童が自ら学ぶ力を育てる指導の工夫	
	・小学校第4学年体育「マット運動」	12
	検証事例・その4	
	地域素材を生かした広さ比べを通して、意欲的に取り組む態度を育てる指導の工夫	
	・小学校第5学年算数「面積」	16
	検証事例・その5	
	郷土を支えた古い道具の紹介を通して、自ら進んで学ぼうとする意欲を高める指導の工夫	
	・中学校第3学年国語「情報を整理して書く」	20
VI	研究の成果と課題	24

**研究主題** 体験的な活動を生かし、一人一人の児童・生徒が自ら学ぶ力を育てる指導の工夫

## I 研究主題設定の理由

### 1 地域の特性を生かした教材による体験的活動を進める視点から

東京都には現在、小学校・中学校あわせて61校のへき地・隔遠地校がある。東京から約1000kmも海を隔てた小笠原小学校から都内檜原村の檜原小学校数馬分校まで、豊かな地形や自然に恵まれてはいるが交通の不便な地域、あるいは豊かな自然を残しながらも都市化による変容が激しい地域など、それぞれが様々な地理的特性をもった学校である。

従来、これらの学校では「郷土学習」などを通して体験的活動を行ってきたが、昨今の児童・生徒には直接体験が不足しており、地域のもつよさに気付いたり親しんだりしていない傾向が見られる。その結果、郷土に対する愛着や誇りが希薄になるなどの傾向も見られるようになった。従って、いわゆる「郷土学習」ばかりでなく、地域の自然や産業、歴史、文化・伝統等を生かした教材による体験的活動を多くの教科・領域で工夫していくことが重要であると考えた。

## 2 たくましく生きる力を育成する視点から

へき地・小規模校には児童・生徒数が少ないことから、一人一人の実態が把握しやすいという利点がある。一方、それ故に教師が必要以上に手をかけすぎてしまうこともある。家庭でも同じことが言える。その結果、明るく純朴な児童・生徒であるが故に、与えられた課題にはまじめに取り組む、教師の指示をよく受け入れるが、自主性、自発性に欠ける面が見られる。従って、これからの社会の変化や様々な新しい課題に主体的に対応し、たくましく生きていく力を育成するためには、一人一人の児童・生徒が自ら学ぶ力を育てていかれるように学習活動の工夫・改善を図っていくことが重要であると考えた。

## II 研究のねらい

多くの教科・領域で、研究仮説に基づき、地域教材を活用した体験的活動を取り入れた授業実践を行い、児童・生徒が自ら課題を見付け、意欲的に課題解決していく態度・能力を育てるための学習活動や教師の指導・援助と評価の在り方を考察し、研究仮説の有効性について検証していくことをねらいとする。

## III 研究の仮説

本部会では、「自ら課題を見付け、意欲的に課題解決していく態度や能力」を備えた具体的な児童・生徒像を次のように描いた。

- ① 自ら学ぶ意欲と進んで学習する態度を身に付けた児童・生徒
- ② 地域の自然や文化に誇りをもち、大切にす児童・生徒
- ③ 互いの個性を尊重し合える児童・生徒

このような児童・生徒を育てるために、地域の教材化を図った体験的活動の工夫及び表現活動の工夫の2つの観点から、以下の仮説A及び仮説Bを設定した。

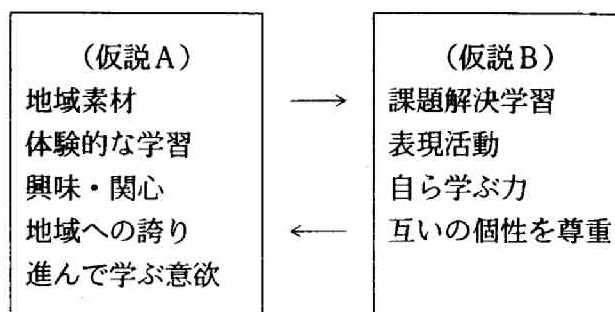
〈仮説A〉地域素材や身近な素材を活用し、体験的な学習活動を展開することにより、児童・生徒の興味・関心と地域への誇りも増し、自ら進んで学ぼうとする意欲が高まるであろう。

〈仮説B〉主体的に課題に取り組む学習活動や表現活動を工夫し、児童・生徒が課題を解決することにより、自ら学ぶ力や互いの個性を尊重する態度が養われるであろう。

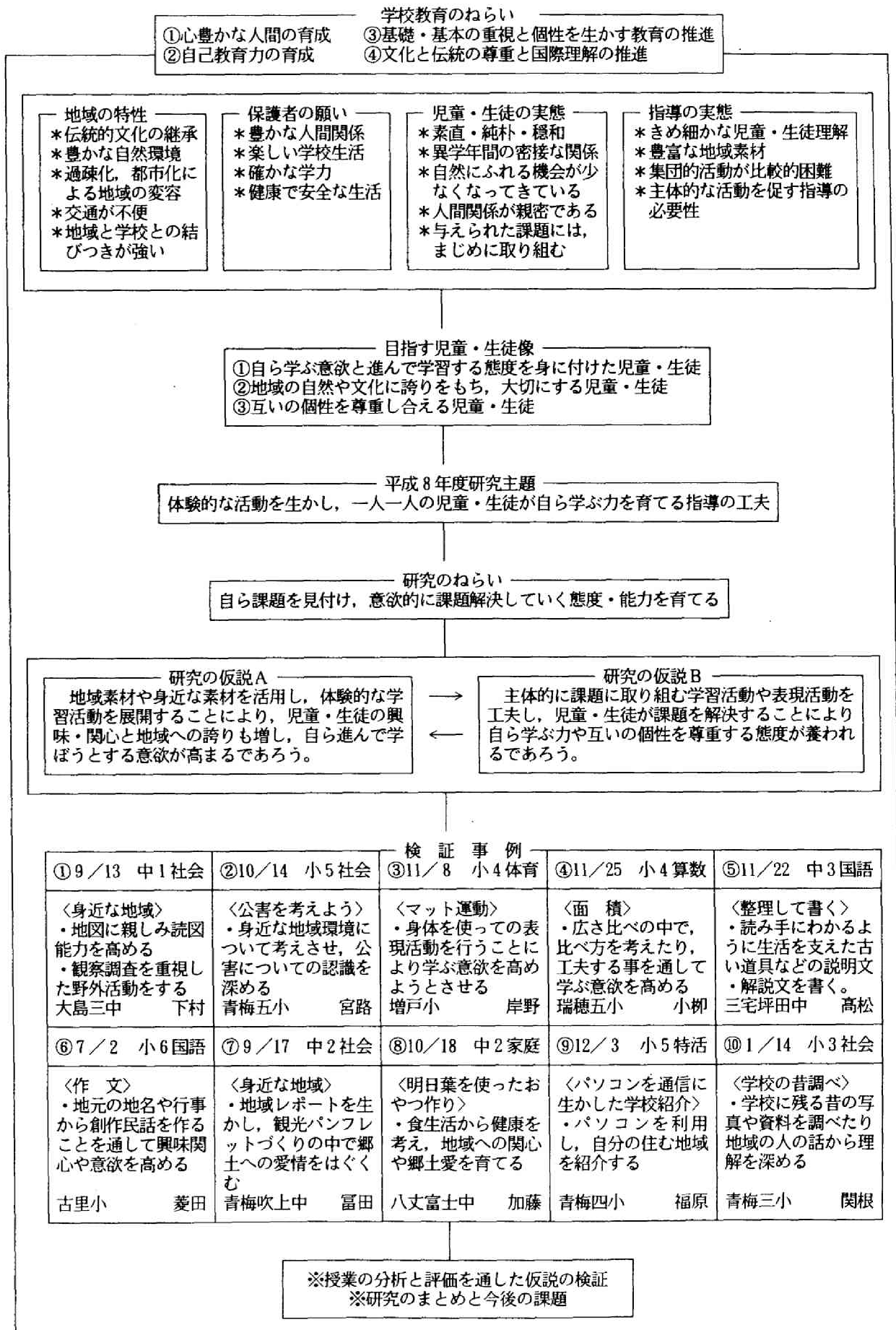
仮説Aと仮説Bは右図のように相互に関連性を持っている。

これは、体験的な学習活動をし、表現することによって、お互いの個性が尊重されること意味している。

また本部会では、この仮説を大きく単元全体でとらえるばかりでなく、ひとつひとつの授業の中でも取り組むことにより検証することにした。



#### IV 研究の全体構想



## V 研究の内容

### 〈検証事例・その1〉

事例名 「学区における観光案内を通して、

一人一人の生徒が自ら学ぶ力を育てる指導の工夫」

中学校 第1学年 社会

#### 1 単元名

〈地理〉「身近な地域」

#### 2 単元のねらい

- (1) 身近な地域における事象を取り上げ、観察・調査する方法を身に付けさせる。
- (2) 縮尺の大きな地図や統計その他の資料に親しませ、それらの活用の仕方を考えさせる。
- (3) 身近な地域に対して理解・関心を深めるとともに、郷土を愛する心を育てる。

#### 3 単元を通じた授業仮説

##### (1) 仮説A

地図に親しみ読図能力を高めた上で身近な地域を対象に、観察調査を重視した野外調査を行う。

これらの学習を通して、生徒は身近な地域に対して興味・関心・理解を深め、誇りも増し、自ら進んで学ぼうとする意欲が高まる。

##### (2) 仮説B

身近な地域に対して、学習意欲を高めた上で自ら課題を設定して野外調査を行い、自分の方法で課題解決を図り、その結果を発表させる。

これからの学習を通して、生徒は課題解決に迫り、成就感を得ることにより、自ら学ぶ力やお互いの個性を尊重する力が養われる。

#### 4 地域の様子

大島は過疎化傾向にあり、都会に劣らず核家族化は増加している。保護者の一方または両方が大島出身者という家族が多いにもかかわらず、子供は祖父母や親戚・近所の祖父母とも触れ合うことが少なくなっている。その結果、とくに大島の南部地区では子供が大島方言で話す姿はほとんど見られない。生徒が身近な地域に対して興味・関心・理解を深め、誇りを増すには身近な地域を学習し、より多く知ることが大切だと思われる。

#### 5 生徒の実態

授業に一生懸命取り組んでいるのに基礎学力がなかなか身に付かない、自分から進んで勉強しない、などの傾向がみられる。その要因として、忙しい・時間がない・他にやりたいことがあるなどが挙げられる。その克服のためには、学習意欲を高める各教科の工夫が必要ではないかと思われる。生徒の特徴の一つに生活体験が不足しがちで人間関係をつくるのが上手ではないという面があるので、グループ学習を取り入れてお互いの個性を尊重しながら仲間どうしで協力してやり遂げる体験をできるだけ多くさせる必要がある。

また生徒は案外身近な地域のことを知らない。大島のよさ、自然や文化について学習し身近な地域について興味・関心を高め、理解を深めさせ、進学や就職で大島を離れても郷土を愛する心をもたせたい。

6 単元学習指導計画における仮説と評価

時	指導計画	各時間における仮説	評価の項目
1	地図にはたくさん種類があり、縮尺があることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• たくさんの種類の大島の地図を見ることにより地図には縮尺がある事に気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地図に興味・関心をもてたか。</li> <li>• 地図の縮尺を理解したか。</li> </ul>
2	地図のきまりを調べる。 (方位・等高線・地図記号など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教科書を調べることにより地図のきまりを理解する。</li> <li>• 問題集を解くことにより理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地図のきまりを進んで調べたか。</li> <li>• 読図能力が高まり、意欲的に問題に取り組んだか。</li> </ul>
3	身近な地域の中でクニの人に紹介したいところを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 身近な地域の中にある名所史跡産業などを調べて発表することによりクニの人に紹介したいところへの意欲がわく。</li> <li>• 発表の中で紹介されなかった補足説明を聞くことにより目安が付き課題を設定することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• クニの人にここを紹介したいと考えられたか。</li> <li>• 身近な地域に対して興味・関心が高まったか。</li> </ul>
4	身近な地域の地図の中からクニの人に紹介したい場所・コースを決定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 各班ごとに話し合うことによりクニの人に紹介したい場所・コースを班ごとに主体的に決めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 他の仲間の意見を尊重しつつ自分の意見を述べ、場所やコースを決められたか。</li> </ul>
5	野外調査を実施し、実際の土地の感じをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 身近な地域の地図を持ち、当日に紹介したい場所・コースを歩くことにより地図と実際の土地の感じをつかむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 読図能力が高まったか。</li> <li>• 身近な地域の中で新たな発見があったか。</li> </ul>
6	いくつかの資料を調べ、課題を解決する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 紹介したい場所・コースについて班員が協力して調べることにより課題を解決していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• お互い協力して調べる事ができたか。</li> <li>• 資料を活用し自ら学ぶことができたか。</li> </ul>

7	発表準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に場所・コース説明の練習をやることにより身近な地域への理解と愛着が深まる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が自分の案内の発表をすることができたか。</li> <li>・身近な地域への理解と愛着が深まったか。</li> </ul>
8 (本時)	野外発表をする。 (観光案内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クニから来たお客さんを連れて自分たちの調べた場所・コースを案内することにより成就感が得られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クニから来たお客さんに喜んでもらえるような心のこもった案内ができたか。</li> </ul>
9	単元のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光案内の感想を書くことにより郷土愛が表現できる。</li> <li>・読図の問題練習をすることにより読図能力が高まる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な地域に対して理解・関心が深まり郷土を愛する心が育ってきたか。</li> <li>・地図を読む力が高まったか。</li> </ul>

※クニの人のクニとは大島以外の地を指す大島の昔からの方言であり、本単元では生徒に身近な地域について愛着をもたせ、この方言を言い伝えていきたいというねらいからあえて使った。

## 7 本時の学習指導

(1) 題材 「身近な地域」〈クニから来たお客さんに観光案内をしよう〉

(2) 本時のねらい

ア クニから来たお客さんを連れて地図で説明しながら観光案内をすることにより、読図能力を高めるとともに、実際の地域的特色の理解を深める。

イ 班員が協力してわかりやすく説明しながら観光案内をすることにより、表現力を高める。

(3) 本時の授業仮説

仮説A

自分たちが調べた身近な地域を地図を見ながら案内し説明することにより、郷土に対する誇りが増し、自ら進んで学ぼうとする意欲が高まるであろう。

仮説B

班員どうしが協力して説明し、訪問者に喜んでもらうことにより成就感を得て、自ら学ぶ力と班員どうしお互いの個性を尊重する態度が養われるであろう。

(4) 展開

	学 習 活 動	教師の支援・指導上の留意点	検 証 の 視 点
導 入	観光案内先を発表しご案内する方を決定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の郷土に誇りをもち案内先を紹介するような意欲をもたせる。</li> <li>・1時間で案内でき、よく知っている場所・コースであるが、安全に注意して出かけるように注意を与える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・案内先を紹介することで自分の郷土に誇りをもてたか。(仮説A)</li> </ul>



展 開	各班（6班）ごとに観光案内に出かける。 (1)地図を読み、地形の説明をする。  (2)案内場所の説明をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全に注意する。</li> <li>各班員の役割分担を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地図を読み地形の説明をすることで読図に慣れる。（仮説A）</li> <li>第三者への説明をすることで成就感を得て自ら学ぼうとする意欲が高まる。（仮説B）</li> <li>班員が役割を分担することによりお互いの個性を尊重する態度が育つ。（仮説B）</li> </ul>
ま と め	観光案内の報告をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全の確認をする。</li> <li>次の時間の予告をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成就感をもって帰ってきたか。（仮説A）</li> </ul>

#### (5) 評価

- ア クニから来たお客さん（実際には研究員のメンバーである）を連れて地図で説明しながら観光案内をすることにより、地図に親しみ、読図能力が高まった。また、地域的特色への理解が深まった。
- イ 班員が協力して身近な地域について、分かりやすい説明をしながら観光案内をすることで郷土に対する誇りをもつことができた。

#### (6) 授業仮説に対する評価

- 〔仮説A〕自分たちの調べたことの説明に対するクニから来たお客さんからの感想を聞いて、地域への誇りが増した。
- 〔仮説B〕班員が協力しながら案内をすることにより、お客さんの喜ぶ姿をみて、成就感が得られ、お互いのよさに対する理解が深められた。

### 8 成果と課題

生徒は、感想文の中に「いままで知らなかったことを知りました。」「もっと、大島のことを知りたくなりました。」「お客さんの先生方に喜んでいただけたので本当によかったと思いました。」とあるように、自ら学ぼうとする意欲の高まりを示しており、地域への理解が深まり、成就感が得られ、誇りが増したと自己評価している。

また、「案内していると、予想外の質問がでてきて答えられなかったことが多かったので、もう少し調べておけばよかったです。」のように、調べ学習での不十分さに気付き、再度調べ直すなど、自ら進んで学ぶ力が育っていることが認められた。

今回の授業では、クニから来たお客さんへの観光案内であったが、今後の課題としては、地域の小学生を案内することなどの工夫をする必要がある。もう一は、読図能力を高める工夫とそのための時間設定が必要であることがあげられる。

## 〈検証事例・その2〉

事例名 「地域の環境問題を調べることを通して、

自ら課題を解決し、地域に関心をもつための指導の工夫」

小学校 第5学年 社会

1 単元名 「公害について考えよう」

2 単元のねらい

- (1) 水俣などで起きた公害を調べ、公害の広がった背景や現状をとらえ、把握することができるようにする。
- (2) 公害防止に努力する国、県、市、企業などの努力を具体的に理解することができるようにする。
- (3) 身の回りや地域の環境問題を調べ、環境をよくするためにできることを探り、進んで行動できるようにする。

3 単元を通した授業仮説

(1) 仮説A

身の回りの環境を調べることにより、地域の騒音・排気ガス・水の汚染などの身近な公害への興味・関心が高まり、自ら進んで学ぼうとする意欲が高まるであろう。

(2) 仮説B

地域の環境について、自分たちの立てた計画をもとに実態調査をし、調査結果について、まとめたこと考えたことを使って発表しあうことにより、自ら学ぶ力やお互いの個性を尊重する態度が養われるであろう。

4 地域の様子

多摩川がすぐそばを流れ、山に囲まれた恵まれた自然環境ではあるが、川はゴミや生活排水により汚染が進み、学区域の真ん中を吉野街道が通り、トラックによる排気ガス・騒音・交通事故に悩まされている。また、山の裏では産業廃棄物の処分場がつくられ自然環境が変化している。地域社会で廃品回収・川の清掃などを定期的に行うなど、地域の人々の自然環境に対する関心は高い。

5 児童の実態

恵まれた自然環境のため、草木の名をよく知っている児童が多い。しかし、環境にはあまり関心がない。また、社会科は語句の意味がよくわからないから好きではないという児童が多い。教科全般を通して、与えられた課題に対してはまじめに取り組むが、自分から進んで課題を作り、解決しようという意欲が不足している。

6 単元学習指導計画における仮説と評価

時	指導計画	各時間における仮説	評価の項目
1	水俣病の写真や資料から被害の様子を話し合い、発生原因や工場の対応、公害への取り組みの様子を指摘できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な公害の実態を知ることにより、地域の環境に興味・関心をもつようになるであろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公害に対する興味・関心が高まったか。</li> </ul>
2	資料から全国の公害を調べ、公害の広がった背景や現状をとらえ、指摘できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で資料を調べることにより、公害について進んで学ぼうとする意欲が高まるであろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公害について進んで学ぼうとする意欲が高まったか。</li> </ul>
3	川崎市の条例などから公害防止に努力する国、県、市、企業などの働きを具体的に理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べ学習を通して市、県、企業、市民などが、協力して公害防止に取り組んでいることに気付くであろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公害防止について進んで学ぼうとする意欲が高まったか。</li> </ul>
4	地域の環境問題に、関心をもち、地域を調べる計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオや写真をみて考えることにより、地域の環境問題に興味・関心が高まるであろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の環境問題を学ぼうとする意欲が高まったか。</li> </ul>
5 6 7	<p>地域の環境問題を自分たちで立てた計画をもとに実態調査をし、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表準備をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオ撮影、インタビュー、実地調査、観察などを行うことにより、地域の環境問題に、さらに興味・関心が増すであろう。</li> <li>協力して調べることによりお互いの意見や考えを大切にしようになるであろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の環境問題に興味・関心が増したか。</li> <li>お互いの意見や考えを大切にしようとしたか。</li> </ul>
8 (本時) 9	地域の環境問題をいろいろな表現方法で発表し、環境をよくするために自分たちができることを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表を通してお互いの考えを大切にし、学び合う姿勢が身に付くであろう。</li> <li>自分たちができることを考えることにより、環境改善への意欲が高まるであろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お互いの考えを大切にしようとしたか。</li> <li>学び合う姿勢が身に付いたか。</li> <li>環境改善への意欲が高まったか。</li> </ul>

## 7 本時の学習指導

(1) 題材 「地域の環境について調査結果を発表する。」

(2) 本時のねらい ア 地域の環境問題の実態を知る。

イ グループ内で協力しながら、発表する。

ウ グループ発表を共感的に聞き、意見や感想をもつ。

(3) 本時の授業仮説

仮説A 地域の環境問題の実態を知ることにより、地域の環境問題への興味・関心が増し、自ら進んで学ぼうとする意欲が高まるであろう。

仮説B 地域の環境について調査結果を様々な表現方法で発表することにより、自ら学ぶ力や互いの意見や考えを尊重する態度が養われるであろう。

(4) 展開

	学 習 活 動	教師の支援・指導上の留意点	検 証 の 視 点
導 入	グループごとに発表概要を言う。	・各グループが発表する概要を確認させる。	・各グループの発表を理解し、発表を積極的に聞こうとする。
展 開	グループごとに発表し、質問を受ける。	・各グループで発表の準備がしっかりできているか確認する。 ・聞き取りカードの記録の取り方を説明する。 ・質問に答えられないことは次時までに調べておくように伝える。	・地域の環境への興味・関心をもつ。 (仮説A) ・発表に対する意見や考えをもつ。(仮説B) ・協力して発表し、互いの意見や考えを認める。(仮説B)
終 末	発表に対する感想を書く。	・発表グループに手紙として渡すよう指示する。	・相手にむけて書くことにより、自分で考え学ぶ力がつく。 (仮説B)

(5) 授業の評価

- ア 地域の環境問題を調べることにより、地域の環境についての興味・関心が深まった。
- イ 協力して発表したり、話を真剣に聞くことにより、互いの意見や考えを認め合えた。

(6) 授業仮説に対する評価

- ア 地域の環境問題にあまり関心のなかった児童も自分で調べることにより、環境を守ろうとする意欲がでてきた。
- イ 様々な表現方法で発表することにより、お互いの個性を尊重する姿勢が身に付いた。

8 成果と課題

児童が自分で地域の環境問題を考え、調査して発表する学習過程の工夫により、多様な発表方法・考えなど意欲的に取り組むことができた。各グループの発表を真剣に聞いたのも、課題意識を皆がもっていたためである。各グループに宛てた手紙でも、「犬のふんをほおっておくと迷惑がかかるので、散歩させるときは必ずビニル袋とシャベルを持ち始末する。」「公園や川岸では、ゴミは持ちかえるだけでなく、落ちているゴミも片付けるようにしたい。」など、地域の環境を守ろうと考えるようになった。

しかし、発表時間や内容を教師があらかじめ助言・指導し、しっかりおさえておかなかったため、時間がかかりすぎてしまった。また、二酸化炭素濃度などの児童にとってわかりづらい用語をわかりやすく説明する機会をもうけたかった。発表する文も誰が見てもわかるよう工夫させるべきであった。ビデオやOHPなどの機器も有効に使っていかなければならない。

この研究を通して、児童が地域の環境問題に関心をもち、自分で課題を見付け解決していく姿勢が身に付いたことが、なによりの成果である。また、道路に落ちているゴミを拾ったり、校庭のゴミ拾いを週一度クラスでするようになったことも評価したい。

### 〈検証事例・その3〉

事例名 「秋川を題材としたマット運動を通して、  
一人一人の児童が自ら学ぶ力を育てる指導の工夫」  
小学校 第4学年 体育

#### 1 単元名 器械運動「マット運動」

#### 2 単元のねらい

- (1) マット上で各種の回転やバランス技がある程度正確にできる。
- (2) マット上でいくつかの技を組み合わせ、マット運動の楽しさを味わうことができる。
- (3) 協力し合いながら、マット運動に取り組むことができる。

#### 3 単元を通じた授業仮説

##### (1) 仮説A

自分ができるマット上での回転やバランス技を発表する時に、川遊びや理科学習等日常的に足を運んでいる身近な秋川を題材にすることにより、イメージをもって進んで技を組み合わせようとするであろう。

##### (2) 仮説B

自己の体を操作して、いまできる動きを高めたり、いくつかの技を組み合わせることにより、自らのめあてをもち互いに助け合い、励まし合いながら学習に参加しようとする態度が養われるであろう。

#### 4 地域の様子

本校は旧五日市地区にあり、夏場の都民の憩いの場である秋川が近くに流れ、緑も多く残っていて自然環境には恵まれている。

子供たちも四季を通じて、魚釣り・水遊び・生活科や理科学習で秋川を訪れることが多く慣れ親しんでいる。親世代も川遊びに関しては、自らの生活経験を基に我が子におおいに勧めている程である。

川遊びや魚釣りに絶好な時の静かな優しい秋川の表情や、大雨や台風後の増水した秋川の荒々しさなど、秋川の変化する表情は子供たちが小さい頃から見て知っている。また、祖父母を含め地域の人々から、川への接し方をそれとなく日常的に教えられているようである。

#### 5 児童の実態

全体的には素直でのびのびと生活している。体を動かすことが大好きで、明るくエネルギー的な活動を好む児童が多い。マット運動はボール運動やゲームに比べると好きな児童は少ないが、嫌いと答えた児童は、男子の方が女子より多い。自分の体を自分で操作しにくい児童に見られる傾向である。しかし、どの児童も、いままでできなかった技ができるようになった時はとても嬉しそうな態度を示し、皆に見てもらうことを喜んでいる。

技能的力量の違いも大きく、前転もまっすぐに回れない児童もいるが、飛び前転や倒立前転、側方倒立回転に挑戦しようという児童もいる。

6 単元学習指導計画における仮説と評価

時	1	2	3	4	5	6	7	8本時	9	10
道筋	いまもっている力で楽しむ～工夫して楽しむ。					お話に合わせて技をつなげて楽しむ。				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いまできる回転技を楽しむ。</li> <li>○回転技が調子よくできる。</li> <li>○バランスをとる技ができる。</li> <li>○安全に気を付け、友達と協力し合って運動に取り組むことができる。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>○回転技やバランス技を組み合わせることができる。</li> <li>○組み合わせた技でマット運動を楽しむことができる。</li> </ul>				
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いまできる回転技を楽しみ、なめらかな前転になるよう工夫する。</li> <li>・新しいバランス技に挑戦する。 首倒立 頭倒立 片足水平立ち 片膝立ちバランス</li> <li>・回転技やバランス技が正確にできるよういろいろな場で練習する。</li> <li>・スピードコントロールできるようにする。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなでお話マットを作る。</li> <li>・つなぎ方の工夫を考えながら練習する。</li> <li>・グループの中でお話マットを作る。</li> <li>・なめらかにつなげるよう互いに教え合う。</li> <li>・発表し合い、互いに認め合う。</li> </ul>				
各段階における仮説と評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの体を操作し、いろいろな回転技を楽しむことで、マット運動への意欲が高まるであろう。</li> <li>・いまできる動きをさらに高めようとすることで、自分のめあてをもつことができるであろう。</li> <li>・新しいバランス技を習得することで、マット運動により興味・関心をもつであろう。</li> <li>・いろいろな場を設定することにより、自分のめあてをもって取り組めるであろう。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・いまできる技をつなげることでマット運動への興味・関心を持続できるであろう。</li> <li>・身近な秋川を題材にすることにより、いくつかの技をつなげてお話マットを作ろうと意欲をもつであろう。</li> <li>・互いに教え合うことにより、自分のめあてがよりはっきりともてるであろう。</li> <li>・互いに発表し、見合うことで、友達のよいところを見つめ、認め合えるであろう。</li> </ul>				
評価の項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いまできる技をマット上で楽しんでいる。</li> <li>・新しい技を習得しようとする意欲が高まっている。</li> <li>・自分のめあてをもって練習する場を選ぶ。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に連続技を考えようとしている。</li> <li>・なめらかな動きができるように工夫している。</li> <li>・友達の助言を聞くことができる。</li> <li>・友達に助言できる。</li> </ul>				

## 7 本時の学習指導

(1) 題材 「秋川をイメージして、お話マットを作る。」

(2) 本時のねらい

ア 自分の能力にあわせていくつかの技を組み合わせることができるようにする。

イ つなぎの技を工夫して運動を楽しむことができるようにする。

ウ 安全に気を付け、友達と協力して進んで運動に取り組むことができるようにする。

(3) 本時の授業仮説

仮説A：身近な秋川をイメージして短いお話をつくり、それに合わせて自分のできる技をつなげることにより、進んでマット運動に取り組もうとするであろう。

仮説B：個人あるいは複数で技を組み合わせ、なめらかにつなげようというめあてをもつことにより、互いに教え合おうとする態度が養われるであろう。

(4) 展開

時	学 習 活 動	教師の支援・指導上の留意点	検証の視点
5	1 準備運動をする。 2 本時の流れを確かめる。	・グループごとに短いお話を用意する。	話をしっかり聞いている。(仮説A)
	3 組み合わせたい技をカードに記入する。 4 試してみる。 5 自分の考えた技でよいか互いに教え合う。 6 練習する。	・技能的に同程度の2～3人のグループで考える。(カードはあらかじめ児童が持っている) ・つなぎの技も考えるようにする。 ・運動している児童以外は、技に合わせてお話を読ませる。 ・友達のよかったところ、直したいところを互いに言うようにする。 ・個人で考えた技も認める。	技が記入できる。(仮説A) 意欲的に取り組む。(仮説A) 友達に助言できる。 友達の助言を聞ける。(仮説B)
35	7 集合する。 本時の活動を振り返り、学習カードに記入する。	・直した技など各自で確認させる。 ・楽しく学習できたか、教え合えたかなどのまとめをする。	進んで取組めた。(仮説A) 教え合えた。(仮説B)
40	8 整理運動をする。 9 後片付けをする。	・次時の活動を確認する。 ・協力して安全に素早くできるようにする。	



(5) 評価

- ア 自分の能力に応じて、友達と相談したり話し合いながら技を組み合わせることができた。
- イ 技と技がなめらかにつながるように、つなぎの技も工夫して、自分たちが作った秋川のお話をイメージした動きのマット運動を十分楽しむことができた。
- ウ マットの準備や後片付けを協力して行えた。また、2～3人の小グループの時に、協力して技を決めることができた。

(6) 授業仮説に対する評価

仮説A

身近な秋川を題材にして短いお話を自分たちで作って、そのお話を基にして技をつなげる活動は、児童の関心・意欲をおおいに引き出し、持続させた。器械運動としては初めて取組むマット運動であったが、「5、6年生になったらもっと多くの技をつなぎたい。」あるいは、「自分のできる技をもっと上手にしたい。」等と、これからのマット運動に対する意欲も見せていた。

仮説B

技能的に同程度の力を有している児童で2～3人グループを組んで技を組み合わせることにより、互いに相談できる場面が設定できた。決めた技が上手にできない時には、「こうしたらできる。」あるいは、「この時に手をつく。」等のこつやタイミングを試しの時間にマットを使って教え合う姿も見られた。

お話にあわせて、自分たちが決めた技をなめらかにつなげようというめあてをもてたので、互いに助言が得られていた。

8 成果と課題

本単元で取組んだマット運動では、いまもっている力で楽しみ、技の幅を広げる体験を通して、その上で技をつなげて楽しむ、という道筋を考えた。

技につなげる場面では、自分たちに身近な秋川をイメージした短いお話を作り、そのお話にあわせて考えたが、意欲的に取組んでいた。一人一人が、自分のお話に合わせて、自分でできる技を取り入れようというめあてをもつことができた。

マット運動に関する事前アンケートで、マット運動が嫌いだったり、マット運動を授業でやりたくないと答えていた児童が「工夫して楽しむ」場面、さらに「技につなげて楽しむ」場面から、マット運動は楽しいと教師に報告に来る姿が見られた。自分の能力に応じて技をつなげ、マット運動を楽しむことから、単に技ができない、上手でないという理由でマット運動に対して興味・関心を失いがちな児童が興味・関心をもち、さらに意欲を持続できたことは大きな成果であった。

今後の課題としては、児童の教え合いをさらに深めるために、単技の完成度を高める必要があり、指導過程の中でフィードバックして単技を練習する場面を設定するなどの柔軟性が要求される。また、学習カードに「教えてもらいたいこと」の項目を設け、児童間や教師からの助言、支援を受けやすくし、次時に生かす工夫が必要である。

〈検証事例・その4〉

事例名 「地域素材を生かした広さ比べを通して、  
意欲的に取り組む態度を育てる指導の工夫」

小学校 第4学年 算数

1 単元名 「面積」

2 単元のねらい

- (1) 広さに興味をもち、広さを表したり、比べたりする活動を通して、面積の概念を理解する。
- (2) 面積は、単位のいくつ分として測れることを知り、面積の測定の意味を理解する。
- (3) 長方形、正方形の面積の求め方を考え、公式を導くことで、そのよさに気づき、それを積極的に用いて身の回りの面積を求めようとする。
- (4) 面積の単位には、測定する面積の大小によって、いろいろなものがあることを知り、それらの量感を養う。

3 単元を通した授業仮説

(1) 仮説A

身の回りのものや場所の面積を測定したり、認識したりする活動を通して、面積や地域をより身近に感じ、興味・関心も増し、自ら学ぼうとする意欲が持続するであろう。

(2) 仮説B

一人一人が課題に取り組める場や、十分な時間を確保し、友達の様々な解決方法と自分の考えを比べる活動を通して、自ら学ぶ力や互いの個性を尊重する態度が養われるであろう。

4 地域の様子

本校は狭山丘陵の西端に位置し、校舎の北側は丘陵の豊かな自然に恵まれている。学校ではそこを「自然観察路」と名付け、理科の学習や特別活動等に利用している。「自然観察路」は子供たちに人気の高いクラブ活動の一つ、探検クラブの活動の拠点でもあり、楽しい場所、おもしろい場所としての認識が高い。夏にはPTA主催の「親子ホテル鑑賞会」もあり地域の人にとっても愛されている場所である。

5 児童の実態

与えられた課題に対しては真面目に取り組むが、自分で課題を見付けたり、解決方法を根気強く考えたり、筋道をたてて説明したりすることは苦手な児童が多い。また、以前学習した基本的な事柄を忘れてしまう児童も多く、定着に時間がかかる。

6 単元学習指導計画における仮説と評価

時	指導計画	各授業における仮説	評価の項目
1	身の回りのものの広さ比べをすることを通して、直接比較で広さ比べができることや、広さの概念を理解する。	・身の回りのものの広さを比べることで意欲的に活動するだろう。	・意欲的に広さ比べをしているか。

2 ( 本 時 )	切り株と板との広さ比べをする活動を通して、周りの長さでは広さは比べられないことや任意単位を用いて広さ比べができることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近なものを教具として用いることにより、関心が増し意欲が高まるであろう。</li> <li>課題を解決することにより、成就感が得られるであろう。</li> <li>友達の考えを聞くことにより、認める態度が養われるであろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>真剣に課題解決に取り組んでいるか。</li> <li>友達の発表を聞いているか。</li> </ul>
3	どちらがどれだけ広いかを調べる学習を通して、普遍単位の必要性に気づき、面積は $1\text{cm}^2$ のいくつ分として表せることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近なものを敷き詰める活動をする中で、意欲的に課題に取り組み、友達の結果に関心をもつであろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>敷き詰め作業を丁寧に行っているか。</li> <li>友達の発表を聞いているか。</li> </ul>
4	$1\text{cm}^2$ のマスに能率的な数え方を考え、長方形の面積が、たての長さ×横の長さで求められることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人が課題に取り組み、みんなの意見で一番よい方法を導くことで、自ら学ぶ力と他を尊重する態度が養われるであろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分なりの方法で課題解決ができたか。</li> <li>友達の考えのよさを認めることができたか。</li> </ul>
5	身の回りのものの面積を公式を用いて測定し、公式の便利さに気づき、量感を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りのものを測定することにより意欲的に活動するだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的にいろいろなものの面積を調べようとしているか。</li> </ul>
6	複合図形の面積を、長方形どうしの面積の和として、また、長方形の面積の差として求めることができることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分なりの方法で課題を解決することにより成就感が得られるであろう。</li> <li>友達の発表を聞くことにより、他を認める態度が養われるであろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分なりの方法で課題解決ができたか。</li> <li>友達の考えのよさを認めることができたか。</li> </ul>
7 8 9	広い面積を表す単位に ・ $\text{m}^2$ , a, ha, $\text{km}^2$ がある ことを知り、それを用いて面積を表すことを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>茶畑や横田基地の面積を知ることにより、地域への関心が高まるであろう。</li> </ul>	

7 本時の学習指導

(1) 題材

「切り株と板の広さ比べをしよう。」

(2) 本時のねらい

ア 面積は周りの長さでは比べられないことを理解する。

イ 直接比較だけでなく、間接比較、任意単位を敷きつめる方法でも広さ比べができることを理解する。

ウ 意欲的に課題に取り組むことができる。

(3) 本時の授業仮説

仮説A…裏山の切り株を用いて課題解決学習をすることにより、興味・関心が増し、自ら進んで学ぼうとする意欲が高まるであろう。

仮説B…課題に取り組む前に、解決するための方法を発表したり、聞いたりして課題を解決することにより、自ら学ぶ力や友達の考えのよさを認める態度が養われるであろう。

(4) 展開

学 習 活 動	教師の支援・指導上の留意点	検 証 の 視 点
<p>課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>切り株と板があります。どちらが広いでしょう。</p> </div>	<p>裏山で間引きをするために切られた切り株であることを話し、意欲を喚起させる。</p> <p>予想をたてさせることで、さらに意欲を喚起させる。</p>	<p>切り株に注目しているか。</p> <p>予想をたてるのに意欲的か。</p>
<p>見通しを持つ。</p> <p>・調べる方法をワークシートに書き込み発表する。</p>	<p>調べるために必要なものはどんな物を用いてもよいことにする。</p> <p>調べる方法を考えつかなかった児童は、発表されたどの方法を使ってもよいことを告げる。</p>	<p>調べる方法を考え、書き込もうとしているか。</p> <p>友達の発表を聞いて見通しがもてたか。</p>
<p>課題を解決する。</p>	<p>切り株と板のそれぞれ合同な画用紙を人数分準備しておく。</p> <p>巻き尺、紐、タイル等教室内に準備しておく。</p> <p>解決した結果と、その理由をワークシートに書き込ませる。それでも時間があったら、別の方法でも確かめさせる。</p>	<p>意欲的に課題に取り組んでいるか。</p> <p>どの児童も自分の答えが見付かったか。</p>
<p>発表する。</p>	<p>机間指導の際選んだ数人の児童に発表させる。</p>	<p>友達の発表を聞こうとしているか。</p>
<p>まとめと次時の予告を聞く。</p>	<p>次時の予告をし、本時のどの方法を使いたいかを聞き、まとめとする。</p>	

(5) 授業の評価

ア 面積は間接比較，任意単位により比較ができることを理解できた。

イ 意欲的に課題解決に取り組んだ。

(6) 授業仮説に対する評価

切り株を提示した時点で，かなりの関心を示し，注目を引くことができた。その後の課題解決のための活動にとってもスムーズに移行し，意欲的に取り組んでいた。また，解決する方法を発表させることで，ふだんなかなか取り組まない児童も，主体的に活動していた。このような学習を繰り返していくことによって，自ら学ぶ力が養われるものと思われる。

8 成果と課題

切り株を用いたことで，これから学習する「面積」というものについて，どの児童にも大きなインパクトを与えたようである。切り株は円に近い不定型なものなので，広さ比べがやりにくいということも児童の意欲につながったものと考えられる。しかし，同じ理由で任意単位を敷きつめて広さを比べるという方法が出にくく，また，出たとしても説得力に欠けてしまうため，任意単位から普遍単位という流れを別に作らなければならないということが大きな課題である。算数という教科の場合，地域の素材，身近な素材を用いることは，可能であり，児童の意欲も高まるが，地域特性のものを用いるとなると，なかなか素材に乏しく，日頃から地域素材を教材化することに努めていくことが大切である。

## 〈検証事例・その5〉

事例名 「郷土を支えた古い道具の紹介を通して、  
自ら進んで学ぼうとする意欲を高める指導の工夫」  
中学校 第3学年 国語

### 1 単元名

「情報を整理して書く」 — 読み手によくわかるように —

### 2 単元のねらい

- (1) 読み手を意識して、わかりやすい文章を書く。
- (2) 事柄や事例の扱い方、順序などを考えてわかりやすい説明の仕方を工夫する。

### 3 単元を通した授業仮説

#### (1) 仮説A

不便な島の生活を支えた古い道具などの説明文・解説文を書くため、聞き取り調査学習等さまざまな情報収集活動を通して、改めて自分たちの郷土を見直すとともに、生徒の興味・関心と地域への誇りも増し、自ら進んで学ぼうとする意欲が高まるであろう。

#### (2) 仮説B

多くの情報を活用し、さまざまな表現を工夫し読み手や聞き手によくわかるように文章を書いたり、発表したりすることにより、自らの表現能力を高めたり、相互に向上し合ったりする態度が養われるであろう。

### 4 地域の様子

本校は、全校生徒35名で、島内の3つの中学校の中で一番小規模である。生徒は、恵まれた環境の中で育ち、純朴で感受性に富んでいる。しかし、ものごとに対して自ら意欲的に取り組もうとする意欲・態度や、少人数化が進む中で、集団の中での経験を通してはぐくまれる社会性が十分に育ってこないということが課題となっている。また、積極的に地域の自然や文化について触れなかったり、島のよさを十分知らない生徒も増えている。

### 5 生徒の実態

文章表現学習については生徒の意欲に違いがみられる。普段、活発に発言している生徒も原稿用紙を見せるといやな顔をすることがあるが、昨年度に比べ、「作文」の授業に消極的な面を見せる生徒は減ってきている。しかし、いざ書き始めると行き詰まってしまう生徒がいたり、ただ書き上げればよいというように考えている生徒がいたりする。本教材の『情報を整理して書く』では、自らの情報収集をもとに、「読み手によくわかるように」書き、それをさまざまな表現方法を用いて発表する活動を行い、自己評価や相互評価等を通して、互いに認め合い、高め合うことを期待している。

### 6 単元学習指導計画における仮説と評価

時	指導計画	各時間における仮説	評価の項目
1	学習目標の理解	・学習の全過程を通じた課題や目標をもつことによって、学習に対する心構えをもつことができる	・学習の目標を理解することができたか。

	<p>表現意欲の喚起</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室内ミニ文化財展を開く。</li> </ul>	<p>ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土に対する既知の知識を整理することによって、郷土を再認識することができるであろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土について学ぼうとする意欲をもつことができたか。</li> </ul>
2	<p>調査、研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・島の生活を支えてきた道具等を列挙し、調査研究の方法を話し合う。</li> </ul> <p>題材の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何について説明するか決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査や研究の仕方を理解することによって、自ら資料収集をしようとする態度が培われるであろう。</li> <li>・郷土の生活を支えてきたいろいろな道具に関心をもつことができるであろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料収集の大切さを知り、自ら実践しようとする態度がもてたか。</li> <li>・郷土の風土や生活について深く考えようとする意欲が高まったか。</li> </ul>
3 4	<p>資料収集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き取り調査</li> <li>・文献調査</li> </ul> <p>など</p> <p>文章表現（下書き）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み手によくわかるための着眼点と方法の確認</li> <li>・収集した資料をもとに執筆する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな調査を通して、郷土に対する関心や意欲が高まるであろう。</li> <li>・読む人によくわかるように書くということに対して、課題意識をもてるであろう。</li> <li>・誰が読むかということ意識して執筆することによって、他を思いやる気持ちがもてるであろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な情報を収集することができたか。</li> <li>・課題意識をもつことができたか。</li> <li>・読む人の立場を考えて書くことができたか。</li> </ul>
5	<p>文章表現（推敲・清書）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下書きしたものを推敲し、印刷用原稿用紙に清書する。(印刷・製本)</li> </ul> <p>発表準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表に必要なものを準備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読む人のことを考え推敲・清書することによって、他を思いやる態度が養われるであろう。</li> <li>・級友と発表方法について話し合うことにより、互に向上しようとする態度が育つであろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの文章をよりよくすることができたか。</li> <li>・他と協力しながら発表に向けての課題を解決することができたか。</li> </ul>
6 (本時)	<p>発表・鑑賞・批評</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な発表方法を工夫し、郷土のよさを伝えることによって、郷土に対する愛着が高まるであろう。</li> <li>・書いたものを読み、発表を聞いたりし、感想を話し合ったりすることによって、他を認め合う態度がはぐくまれるであろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表を聞いて、郷土の文化や生活に対する関心を高めることができたか。</li> <li>・他の発表について意見をもつことができたか。</li> </ul>
7	<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査の仕方や発表の仕方について話し合うことを通して、自らの学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土について再認識することができたか。</li> </ul>

	<p>習に役立てられるようになるであろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学習過程を通して反省を行うことにより、郷土に対する認識を新たにすることができるであろう。</li> </ul>
--	--

## 7 本時の学習指導

### (1) 題材

「島の不便な生活を支えてきた道具について、それぞれが調べたものについてわかりやすく説明する。」

### (2) 本時のねらい

- ア さまざまな発表方法を工夫し、効果的な発表について考える。
- イ 級友の発表を共感的に聞き、意見や感想をもてるようにする。
- ウ 先人の生活について考え、郷土への愛着を深める。

### (3) 本時の授業仮説

仮説A…効果的な発表方法を工夫し、郷土のよさを伝えることによって、郷土に対する愛着が高まるであろう。

仮説B…発表を聞いたり、感想を話し合うことによって、他を認め合う態度がはぐくまれるであろう。

### (4) 展開

時	学 習 活 動	教師の支援・指導上の留意点	検 証 の 視 点
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を示す。</li> <li>・発表の準備をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習の確認と本時のねらいを理解する。</li> <li>・各自の原稿をもう一度検討し、確認させる。各自で発表の準備を促す。</li> </ul>	
展 開 30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表 学級で各自のまとめたものを発表する。</li> <li>・鑑賞・批評 発表を聞き、評価する。</li> </ul> <p>《発表会》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①各自発表する。</li> <li>②質問を受ける。</li> <li>③全員で評価する。(評価表)</li> </ol> <p>※①②の繰り返し</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級全体でまとめたものを読みながら、発表を聞くように促す。</li> <li>・効果的に説明し、聞いてもらうための工夫がされているか等について確認させる。</li> <li>・発表を聞きながら評価表を書かせる。ミスを探したりすることが目的ではなく、自分の発表にいかせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な発表方法を工夫し、郷土のよさを伝えることによって、郷土に対す愛着が高まったか。</li> <li>・書いたものを読んだり、発表を聞いたりし、感想を話し合うことによって、他を認め合う態度がはぐくまれたか。</li> </ul>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の感想をまとめ、発表する。</li> <li>・次時への予告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を確認する。(自己評価表)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の文化や生活に対する関心を高めることができたか。(自己評価表)</li> </ul>



(5) 授業の評価

- ア 自ら調査・研究したことを聞き手にわかりやすく発表することができた。
- イ 発表を聞いて、郷土の文化や生活に対する関心を高めることができた。
- ウ 他の発表について意見をもつことができた。

(6) 授業仮説に対する評価

自己評価表等を見ると、初めて目にするものが多かったことで興味を引くことができたようにつながりがある。しかし、発表の準備段階でのさまざまな発表方法についての学習が活かされなかったのが残念である。生徒の感想の中でもっと別のものについて調べてみようとか、昔の人々の暮らしについて考えてみよう等の意見は多く出されていた。

7 成果と課題

普段何気なく見過ごしている中に教材として価値のあるものが多くある。現在は使われなくなったが、先人の生活を支えた道具に目を向け、調べたり、まとめたりする活動を通して、先人の心に触れ、自らの郷土を再認識することにつながった。また、自分がまとめたものを聞き手にわかりやすく伝えることによって、他とのつながりも深められるようになった。

今後の課題として導入段階での興味付け・意識付けをどう行っていくかさらに研究していく。また、自らの学習課題について評価する方法等、教師側の支援のあり方をさらに工夫する必要がある。

## VI 研究のまとめと今後の課題

本研究部会では、地域の特性、保護者の願い、児童・生徒の実態について共通理解を図ったうえで、研究主題を『体験的な活動を生かし、一人一人の児童・生徒が自ら学ぶ力を育てる指導の工夫』とした。そこで、研究主題に迫るために次の2つの仮説を設定した。

〈仮説A〉地域素材や身近な素材を活用し、体験的な学習活動を展開することにより、児童・生徒の興味・関心と地域への誇りも増し、自ら進んで学ぼうとする意欲が高まるであろう。

〈仮説B〉主体的に課題に取り組む学習活動や表現活動を工夫し、児童・生徒が課題を解決することにより、自ら学ぶ力や互いの個性を尊重する態度が養われるであろう。

上記仮説に基づいて、検証授業を行った。その結果、次の成果を得ることができた。

### 1 研究の成果について

- (1) 生徒の感想文の中に「もっと大島のことが知りたくなった」とあるように自ら学ぼうとする意欲を高めることができた。また、「いままで知らなかったことを知った」など地域への理解も深まった。  
(検証事例1・中1社会)
- (2) 地域の環境問題を協力して調べ発表することにより、お互いの考えや意見を尊重する態度が身に付いた。  
(検証事例2・小5社会)
- (3) 自分たちに身近な秋川をイメージした短いお話を作り、マット運動でそのお話に合わせて考えた技を組み合わせるにより、意欲が持続し、表現力を高めることができた。  
(検証事例3・小4体育)
- (4) 学校の裏山の切り株を用いて、広さ比べをすることにより、興味・関心が高まり、課題解決するための方法を話し合うことにより、自ら学ぶ力や友達の考えを認める態度が養われた。  
(検証事例4・小4算数)
- (5) 地域の文化財について効果的な発表をすることにより、地域への誇りも増し、相互評価カードを用いることにより互いの個性を尊重する態度がはぐくまれた。  
(検証事例5・中3国語)

研究の結果、検証事例を通してわかるように、児童・生徒は『体験的な学習』『主体的に課題に取り組む学習』『表現活動を工夫する学習』を展開することにより、自ら学ぼうとする意欲や互いの個性を尊重する態度を養うことができた。

### 2 今後の課題について

- (1) 地域の調査のまとめなどの成果を発表する対象を学級の中だけに限定するのではなく、異学年や地域の人々に広げて発表していく機会や場を工夫する必要がある。
- (2) 発表をさまざまな方法でできるような場の設定を教師が支援することが大切である。
- (3) 学習カードに「教えてもらいたいこと」の項目を設け、児童間や教師からの助言・支援を受けやすくする工夫が必要である。
- (4) 児童・生徒がわかりやすく効果的な発表をすることにより、聞き手からさまざまな質問を導き出せるようにすることが大切である。